



## 東名高速道路全線開通



すでに昨年4月以来飛び石開通していた東名高速道路が、さる5月26日最後の難所といわれた大井松田～御殿場間(25.8 km)の供用開始により全線開通の運びとなった。東京から愛知県小牧までの346.7 kmの完成によって、小牧以西の名神高速道路(189.7 km)と結んだ関東-中部-関西の3大経済圏を貫ぬく536.4 kmの大動脈の出現は、わが国の産業経済、社会文化に急激な変革をもたらすものと期待されている。

名神高速道路の建設と、その後数年間の供用の経験から生れたこの新しい幹線道路は、わが国独自の高速自動車道路の建設技術の発展をうながした。ここに開発された幾多の技術・工法の成果は、さらに供用の経過をおり込んで、今後建設される新規高速道路網建設の指標として大きな役割を果すものと考えられる。

# 中央線中野～三鷹間 4線高架化完成

国鉄第3次長期計画の一環として鋭意工事をすすめてきた中央線中野～三鷹間複々線化工事がこのほど完成し、4月6日から使用を開始した。

本工事は、昭和36年12月に本格的に着工、中野～三鷹間(9.3km)に2線増し、在来線とあわせて4線高架化し(中野、荻窪、三鷹の3駅は地平)、その区間にある56ヵ所におよぶ踏切をすべて立体交差とし、列車運転の安全と道路交通の支障を解消しようとしたものである。第1期工事として中野～荻窪間(3.9km)の在来2線高架切換えを昭和39年9月に、4線切換えを昭和41年4月に完成、引き続き第2期工事として荻窪～三鷹間(5.4km)を昭和42年10月2線切換え、このほど残る区間の完工により全線高架化が完成したものである。また運転方式は、北側2線を快速線、南側2線を緩行線として使用している。

なお中野駅において管団5号線と接続し荻窪までの相互乗入れをしていたものを、三鷹まで延長して輸送力の増強をはかっている。

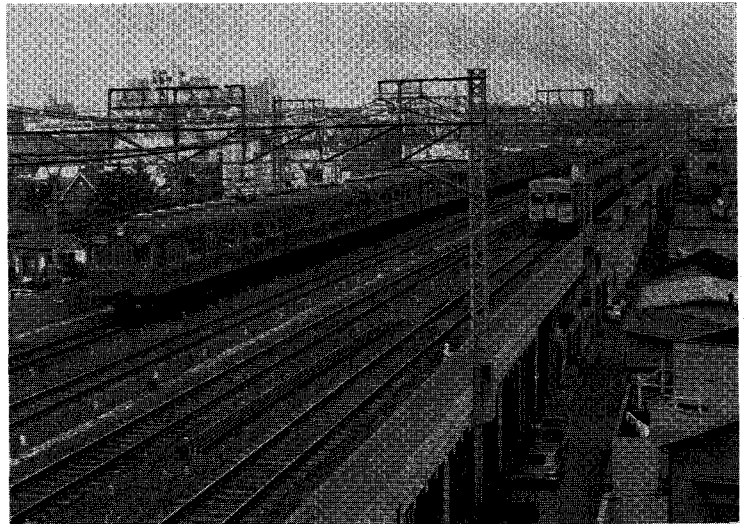
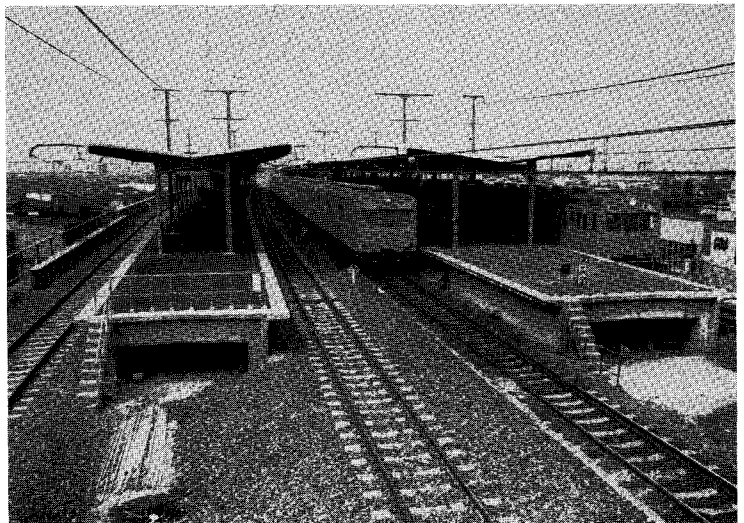


写真-1 東中野～中野間 14K400M付近の地下鉄東西線坑口付近

写真-2 中野～高円寺間の高架部

写真-3 西荻窪駅(高架)



創立20周年記念

昭和44年度 **建設機械展示会**

と き：昭和44年8月1日(金)～8月10日(日)

と ころ：東京都中央区晴海ふ頭国際見本市会場跡

■毎日 実演ならびに映画を上映します■

**入 場 無 料**

主 催 社団法人 日本建設機械化協会 本 部  
後 援 各 関 係 官 公 庁

(問合わせ先) 東京都港区芝公園21号地1-5 機械振興会館 TEL (433) 1501

---

## 内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

---

### 特集・公害と土木技術／会誌編集委員会

土木学会誌第 54 巻第 6 号, pp. 2~67, 昭和 44 年 6 月 (June 1969)

話題を呼んでいる“公害”に焦点を合せ、公害とは何か、その対応策はどうか、土木技術者としてどのように考えてゆかねばならないか等を主題に編集して特集とした。内容は、① はじめに、② 公害の意味するもの (庄司光) / 公害の本質と対策に対する私見 (斎藤正年)、③ わが国の公害の現状 (大塩敏樹・小山要之介・高村 博・望月富雄・鳥海 勲)、④ シンポジウム・私は公害をこう考える (加藤三郎・内山卓郎・市川 新)、⑤ ヨーロッパの公害 (宇井純)、公害年表 (会誌編集委員会)、⑥ 公害問題の対策と今後への課題 (南部祥一) の各編からなっている。

---

### 軽量コンクリートを用いた PC 桁の疲労試験／沢野邦彦・小林峰夫・成岡昌夫

土木学会誌第 54 巻第 6 号, pp. 68~74, 昭和 44 年 6 月 (June 1969)

コンクリート橋の死荷重を軽減する目的で、近年、人工軽量骨材が注目を集めている。軽量骨材 PC 桁についても、静的曲げ試験が行なわれているが、疲労試験はあまり多くは行なわれていないようである。このために、ライオナイト、メサライト、アサノライトを細・粗骨材に用いたプレテン桁 (スパン 6.5 m) 計 6 本を作製し、2 点載荷による曲げ疲労試験を行なった。下限荷重としては桁自重以外の死荷重相当荷重、上限荷重としては設計荷重の 200% を最高とし、合計 200 万回の繰り返し荷重を載荷し、その後、静的破壊に至らしめた。なお、参考のため、普通コンクリート桁 2 本についても同様の実験を行なった。その結果、軽量コンクリート プレテンションング桁は、従来の設計法にしたがうかぎり、疲労に対しては十分な安全性をもっているものと考えられる。

---

## Earthquake Resistant Design for Civil Engineering Structures, Earth Structures and Foundations in Japan. 1968

B 5 · 140 1600 円 (〒 70)

わが国の耐震工学に関する研究は今や世界の注目を集めている。本書は世界地震工学会議を記念して編集され、今回改訂された英文による耐震規定。土質工学会、国際大ダム会議、日本水道協会、運輸省港湾局などが協力した国際版。

## Civil Engineering in Japan, 1968

A 4 · 154 1200 円 (〒 110)

学会編集の英文年報の最新版。昨年で 7 冊目を刊行。日本の土木技術を広く海外へ紹介するため、豊富な写真、図版を盛り込み、各種工事のトピックス、専門分野の展望などを解説。海外旅行のお土産に好適。バックナンバーあり。

## Coastal Engineering in Japan, Vol. 11, 1968

B 5 · 190 1500 円 (〒 90)

海岸工学講演会の発表論文の中から、その年度の代表的研究と見られる論文を委員会が選定し、英訳したもの。日本の海岸工学の業績は今や国際的であり、広く海外との技術交流のために刊行している英文刊行物。

---

---

## 鉄筋コンクリート 工場製品設計施工指針 案

B 6・228 650円 会員特価 550円 (〒70)

橋梁、土止壁、基礎杭、まくらぎ、などプレキャストコンクリート製品の応用範囲は広がる一方である。長年にわたる委員会の努力により、完成した最新の指針。条文・解説のほかに、関連するJISのすべてを収録。

---

## ディック 工法設計施工指針 案

B 5・88 700円 会員特価 500円 (〒80)

## MDC 工法設計施工指針 案

B 5・94 700円 会員特価 500円 (〒80)

## パウル・レオンハルト 工法設計施工指針 案

B 5・100 700円 会員特価 650円 (〒80)

## レオバ工法設計施工指針 案

B 5・84 700円 会員特価 650円 (〒80)

各PC工法を、総則、材料、施工、設計の4編に分け、各条ごとに解説をつけ、各工法に関する詳細な参考事項を巻末に収録したPC工法別の設計・施工のための親切な指針。

---

## 土木材料実験指導書 昭和44年版

B 5・230 490円 (〒70)

セメント、骨材、コンクリート、鉄筋、アスファルトの5章に分け、それぞれの試験方法を解説し、巻末には試験結果を整理しうるデータシートを豊富に入れ、品質管理、異形鉄筋などを追加した最新版で学校教材に最適。

---

## 土木年鑑 1969

B 5・470 3500円 (〒とも)

口絵写真、論説、展望、工学技術および関連資料、事業、資料などに分類し、それぞれの専門家が執筆したビジュアルな年鑑。土木建設界と関連産業の動向を系統的に眺めうる、わが国唯一の役に立つ年鑑。学会編集・鹿島出版会刊。

---

## 橋 1967-1968

A 4・82 1500円 (〒150)

土木学会田中賞の設立を記念して誕生した、わが国橋梁界の歩みを年度ごとに通覧できる美しい橋の年報。受賞論文、受賞作品および応募作品などの紹介に加え、1967年に竣工した主要橋梁の一覧表を収録。一部カラー印刷。

---

# 会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	7月15日(火) ~16日(水)	第10回地震工学研究発表会	土木学会	5号会告4頁参照
	8月7日(木) ~8日(金)	昭和44年度夏期講習会	東 京	6号会告2 "
	8月28日(木) ~29日(金)	第2回土木計画学講習会 同	土木学会	6号会告5 "
	9月4日(木) ~5日(金)		大 阪 市	6号会告5 "
	9月26日(金) ~28日(日)	全国大会・第24回年次学術講演会	東 京	6号会告1 "
北海道支部	7月11日(金)	夏季見学会	札幌地区	6号会告8 "
	8月22日(金)	同	室蘭地区	6号会告8 "
中部支部	8月28日(木)	第1回技術講座	名古屋市	6号会告8 "
関西支部	6月17日(火) ~18日(水)	工程管理に関する講習会	大 阪 市	6号会告9 "
	6月17日(火)	若い会員懇親パーティ	同	6号会告9 "
	8月30日(土)	ブレードガードの座屈に関する研究発表会	同	6号会告10 "
中四支部	7月18日(金)	支部 総 会 特別講演会 学術講演会 見学会	広島市	6号会告11 "
	7月18日(金)		広島市	6号会告11 "
	7月17日(木)		広島市	6号会告11 "
	7月19日(土)		広島県	6号会告12 "
西部支部	8月26日(火) 27日(水)	映 画 会 夏 期 講 習 会 見 学 会	熊本県	6号会告12 "
	8月27日(水)		同	6号会告12 "
	8月28日(木)		同	6号会告12 "
その他	8月19日(火) ~22日(金)	応力測定に関する講習会	東京都	6号会告7 "
お知らせ	■Coastal Engineering in Japan, 1969 掲載原稿の公募について			6号会告3 "
	■第16回海岸工学講演会講演募集			6号会告3 "
	■第19回応用力学連合講演会講演募集			6号会告5 "
	■第6回衛生工学研究討論会論文集			6号会告6 "
	■映画試写会開催について			6号会告6 "
	■第5回国際水質汚濁会議について			6号会告6 "
	■構造またはその構成要素の終局強度に関する研究発表会論文募集			6号会告6 "
	■水工学夏期研修会について			6号会告7 "
	■研究発表会・報文募集(北海道支部)			6号会告8 "
	■第13回国際水理学会会議			6号会告13 "
	■I AHR シンポジウム			6号会告14 "
	■国際会議ニュース欄について			6号会告14 "

## 土木学会昭和44年度全国大会

土木学会昭和44年度全国大会は、第24回年次学術講演会をはじめ、特別講演会、PR講演会、懇親会、見学会をつぎの日程で東京都において開催いたします。

懇親会、見学会、講演概要集購入などの申込み方法は、学会誌7月号でお知らせします。

- 特別講演会：昭和44年 9月26日(金) 9.30~12.30 於砂防会館ホール
- 部門講演会
- 第24回年次学術講演会： " { 9月26日(金) 13.30~17.30 } 於麴町会館，日本都市センタービル，都道府県会館，砂防会館，全共連ビル，その他  
" { 9月27日(土) 9.30~17.30 }  
" { 9月28日(日) 9.30~17.30 }
- PR講演会： " 9月26日(金) 13.30~16.00 於安田生命ホール
- 懇親会： " 9月27日(土) 18.00~20.00 於ホテルニュージャパン
- 見学会： " 9月29日(月)~30日(火)

1班 中央道富士五湖方面(河口湖泊，東京駅解散) 9月29日，30日(1泊2日)

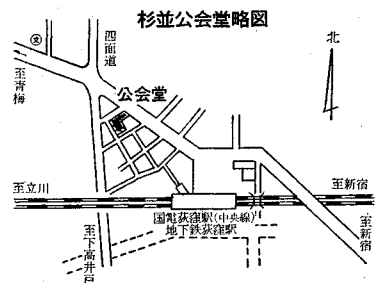
2班 日光金精峠方面(湯元泊，大宮駅解散) 9月29日，30日(1泊2日)

3班 東京都内コース(東京駅解散) 9月29日(日帰り)

昭和 44 年度夏期講習会

◀ 8 月 7 日 (木) ~ 8 日 (金) ▶

毎年夏から秋にかけて日本列島を襲う台風は、高潮、暴風波浪などによって数多くの災害をもたらし、時には多くの人命を奪っています。また地震国であるわが国には多数の地震がおり、それにとまう津波の発生が心配されるばかりか、チリ地震津波のように外国で起きた地震による津波の被害もみられます。四方を海に囲まれたわが国は長い海岸線を持ち、かつ海岸の開発や利用が活発に行なわれている現在、これらの海岸の防災については常に考慮しておかなければなりません。このような自然の猛威から国土を守るのは土木技術者の使命といえましょう。このたび「海岸保全施設設計便覧」が 12 年ぶりに改訂出版されることになり、これを機会に、本年度の夏期講習会のテーマとして取り上げることになりました。すなわち海岸における水理現象、海岸調査、海岸構造物の設計法および特殊海岸工事等海岸施設のあらゆる保全対策とその設計方法について講習を行ないますので多数参加されるようご案内します。



1. 期 日：1969 年 8 月 7 日 (木) ~ 8 日 (金) の 2 日間
2. 会 場：杉並公会堂 (杉並区上荻 1-23-15, 国電・地下鉄, 荻窪駅下車徒歩 5 分)
3. 参加費 (テキスト代を含む)：会員 3 500 円, 非会員 4 000 円
4. テキスト：海岸保全施設設計便覧 (昭和 44 年版) 体裁：B 5 判 300 ページ予定
5. テー マ：海岸保全施設と設計
6. 題 目, 講師および日程：

第 1 日：8 月 7 日 (木)

9.30 ~ 9.40	開会あいさつ	土木学会 会長 柳 沢 米 吉
9.40 ~ 9.50	委員長あいさつ	海岸工学委員会 委員長 岩 崎 敏 夫
9.50 ~ 11.20 (1)	海岸における波浪	中央大学理工学部 首 藤 伸 夫
11.20 ~ 12.20 (2)	構造物に対する波浪	運輸省第 2 港湾建設局 堀 口 孝 男
12.20 ~ 13.20	昼 食・休 憩	
13.20 ~ 14.20 (3)	潮位, 津波, 流れ	東京大学工学部 堀 川 清 司
14.20 ~ 16.00 (4)	漂 砂 と 飛 砂	大阪大学工学部 樫 木 亨

第 2 日：8 月 8 日 (金)

9.30 ~ 11.00 (5)	海岸調査, 保全対策, 工事材料, 消波工	運輸省港湾技術研究所 佐 藤 昭 二
11.00 ~ 12.30 (6)	堤防, 護岸, 突堤	建設省河川局 豊 島 修
12.30 ~ 13.30	昼 食・休 憩	
13.30 ~ 14.30 (7)	養浜と防潮水門	日本大学理工学部 久 宝 保
14.30 ~ 15.30 (8)	農業土木と海岸工事	農林省農業土木試験場 中 村 充
15.30 ~ 15.40	閉会あいさつ	海岸保全施設設計便覧改訂小委員会 委員長 久 宝 保

7. 申込方法：本誌添付の申込書に必要事項をご記入のうえ、参加費を添えて 7 月 21 日までにお申込み下さい。  
 なお、満員の際はお断りすることがありますのでなるべく早目にお申込み下さい。  
 また、受付は着金の順になりますのでご了承ください。
8. 申 込 先：郵便番号 160 番 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会事業課



## Coastal Engineering in Japan, 1969 掲載原稿の公募について

土木学会海岸工学委員会では Coastal Engineering in Japan, 1969 に掲載する原稿を公募致します。提出される原稿は第 15 回海岸工学講演会に発表されたものを原則としますが、それ以外のものでも結構です。下記要項をご参照の上 6 月末日までにご提出下さい。

なお提出された原稿は海岸工学委員会で査読のうえ必要に応じて修正をお願いすることがありますのでご了承下さい。

### 投 稿 要 項

- ① 投稿される原稿はすべて英訳し、タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちすること。
- ② 図面はそのまま製版にとれるよう線図、文字、符号等すべてトレーシングペーパー（白か透明）にスミ入れし、著者の責任において完全な図面を提出して下さい。なお、第 15 回海岸工学講演会講演集の図面を使用する場合は、その旨明記し、別刷に訂正箇所を指示して下さい。
- ③ 原稿 1 編当りの長さは、刷上り 10 ページを原則とし（刷上り 1 ページは約 600 ワード）、掲載原稿はすべて 1500 円の掲載料をいただきます。なお、規定ページを超過した分については 1 ページ当たり 2500 円負担していただきます。掲載料は本文刊行後請求いたします。
- ④ 校正は著者校正とし、校正の時に原稿を大幅に変更した場合は組替え料（実費）をいただきます。
- ⑤ 著者には本書一冊を差し上げますが、別刷は希望者のみ実費で差し上げます。
- ⑥ 1969 年版の予定は下記のとおりです。
  - 原稿締切：1969 年 6 月末日
  - 著者校正：1969 年 10 月以降
  - 刊行予定：1969 年末

注：第 15 回海岸工学講演会の節 Coastal Engineering in Japan に掲載申込みを行なった方も上記要項もご参照のうえ原稿を提出して下さい。

## 第 16 回海岸工学講演会講演募集

第 16 回海岸工学講演会は 12 月に開催することになりましたので、講演ご希望の方は下記によりご応募下さい。

1. 開催時期：1969 年 12 月初旬
2. 場 所：大阪市
3. 講演申込締切：1969 年 7 月 10 日（木）
4. 講演原稿締切：1969 年 8 月 15 日（金）
5. 講演募集要項：
  - (1) 講演申込みの際は、つぎの事項をお書きの上、お申込み下さい。
    - ① 講演題目
    - ② 著者名（連名の場合には登壇者に○印をつける）ならびに職名および連絡先住所
    - ③ 刷上り予定ページ数
    - ④ 寄贈以外の別刷希望数（別刷 50 部は寄贈致します）
    - ⑤ スライド、図面等の有無
  - (2) 同一内容の講演を一緒に 2 つ以上申込むことおよび同一著者が重複して登壇するものは受けません。
  - (3) 原稿 1 編の長さは原則として 6 ページ以内（400 字詰原稿用紙 30 枚以内（図、表、写真を含む））と致します。
  - (4) 原稿の内容により 6 ページ以内に収録することが困難な場合は著者に実費（超過 1 ページにつき約 5000 円）を負担していただきます。また、ページ超過希望の場合は、原稿提出の際、必ずその旨明記して下さい。
  - (5) 講演の採否ならびに Coastal Engineering in Japan への登載の可否については、海岸工学委員会にご一任下さい。
  - (6) 講演原稿は、“原稿執筆要項”に基づき執筆していただきます。なお、“原稿執筆要項”は原稿用紙と一緒に送ります。
  - (7) 講演申込先および連絡先
 

〒 160 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会海岸工学委員会 TEL. (03) 351-5138 (代表)

# 第10回地震工学研究発表会

◀ 7月15日(火)～16日(水) ▶

標記研究発表会を下記により開催致しますので多数ご参加下さるようご案内致します。

1. 期 日：1969年7月15日(火)～16日(水)の2日間
2. 会 場：土木学会土木図書館講堂
3. 主 催：土木学会耐震工学委員会
4. プログラム：○印は講演者

## 第1日：7月15日(火)

- |                  |                                   |   |
|------------------|-----------------------------------|---|
| 9.30～9.35        | 開会あいさつ                            | 土木学会耐震工学委員会委員長                          |
| 9.35～9.55 (1)    | 軟弱地盤の地震応答について                     | 東北工業大学工学部 浅田秋江                          |
| 9.55～10.15 (2)   | 振動をうける砂質土の変形・強度について               | 京都大学防災研究所 柴田 徹・○行友 浩・岡山県 小林裕司           |
| 10.15～10.35 (3)  | 砂層の振動性状におよぼす剛性変化の影響について           | 運輸省港湾技術研究所 荒井秀夫・○梅原端文                   |
| 10.35～10.55 (4)  | 砂質堤防の振動実験                         | 運輸省港湾技術研究所 土田 肇・○野田節男                   |
| 10.55～11.15      | 討 議 (1)～(4)                       |   |
| 11.15～11.25      | 休 憩                               |   |
| 11.25～12.15      | 特別講演-I 第4回世界地震工学会議報告              | 京都大学工学部 後 藤 尚 男                         |
| 12.15～13.05      | 昼 食・休 憩                           |   |
| 13.05～13.25 (5)  | 地震時における道床横抵抗力—木マクラギ軌道, 地震時断面軌道の場合 | 国鉄鉄道技術研究所○佐藤吉彦・小林 悟                     |
| 13.25～13.45 (6)  | 地震時主働土圧についての実験的研究                 | 山口大学工学部 大 原 資 生                         |
| 13.45～14.05 (7)  | フィルダムの模型振動試験                      | 東京大学生産技術研究所 岡本舜三・○田村重四郎・加藤勝行・小野公一郎      |
| 14.05～14.25 (8)  | 振動問題に対する光弾性実験法的应用                 | 東京大学生産技術研究所 岡本舜三・○森地重暉                  |
| 14.25～14.45 (9)  | 強震時構造物の弾塑性応答に関する模型実験              | 東京工業大学工学部○伯野元彦・四俣正俊                     |
| 14.45～15.10      | 討 議 (5)～(9)                       |   |
| 15.10～15.20      | 休 憩                               |   |
| 15.20～15.40 (10) | 曲げ振動系の非線型応答                       | 東京都立大学大学院 国 井 隆 弘                       |
| 15.40～16.00 (11) | 地震時における桁橋内の曲げ振動伝播について             | 九州大学工学部 小坪清真・建設省土木研究所○原田謙二・九州大学大学院 鳥野 清 |
| 16.00～16.20 (12) | 道路橋における地震応答の実測と解析                 | 建設省土木研究所 栗林栄一・○岩崎敏男                     |
| 16.20～16.40 (13) | 吊橋上下部構造全橋の地震応答解析(補剛桁の橋軸方向振動について)  | 建設省土木研究所 栗林栄一・○小山田欣裕                    |
| 16.40～17.00 (14) | 高橋脚橋梁の振動実験に関する二, 三の考察             | 東京大学生産技術研究所 久保慶三郎・日本道路公団技術部 栗原利栄・○武藤肇彦  |
| 17.00～17.25      | 討 議 (10)～(14)                     |   |

## 第2日：7月16日(水)

- |                  |                                      |   |
|------------------|--------------------------------------|---|
| 9.30～9.50 (15)   | ケーソン杭を合成した基礎工の振動解析                   | 大阪市立大学工学部 倉田宗章・大阪工業大学工学部 岡村宏一<br>建設省近畿地方建設局○多田浩彦・大阪設計コンサルタンツ 進藤泰男 |
| 9.50～10.10 (16)  | 地盤振動の非線型性を考慮した鋼管橋脚の地震応答解析            | 九州大学工学部 小坪清真・九州工業大学工学部○高西照彦                                       |
| 10.10～10.30 (17) | 杭基礎の地震時挙動について                        | 九州大学工学部 小坪清真・九州大学大学院○荒牧軍治・川人達男                                    |
| 10.30～10.50 (18) | 直杭橋の振動性状—杭頭加振と地盤加振との比較—              | 運輸省港湾技術研究所○山下生比古・運輸省第4港湾建設局 荒田昌潔                                  |
| 10.50～11.10      | 討 議 (15)～(18)                        |   |
| 11.10～11.20      | 休 憩                                  |   |
| 11.20～12.10      | 特別講演-II：日本の超高層建築について                 | 東京大学教授 梅 村 魁  |
| 12.10～13.00      | 昼 食・休 憩                              |   |
| 13.00～13.20 (19) | 地盤と構造物の相互作用が地震記録に及ぼす影響               | 中央大学理工学部 片 山 恒 雄  |
| 13.20～13.40 (20) | 地盤と上部構造物の相互震動作用の数値解析上の一考察            | 電力中央研究所技術研究所 林 正夫・○日比野 敏  |
| 13.40～14.00 (21) | 地盤と構造物基礎の地震応答                        | 京都大学工学部 後藤尚男・京都大学防災研究所○土岐憲三・京都大学大学院 高田至郎                          |
| 14.00～14.20 (22) | 軟弱地盤に立脚する構造物の振動性状について                | 早稲田大学理工学部 堀井健一郎・早稲田大学大学院○川原建人                                     |
| 14.20～14.40 (23) | 不規則外力を受ける基礎構造物の過渡応答                  | 京都大学工学部 後藤尚男・京都大学防災研究所 土岐憲三・京都大学工学部○秋吉 卓                          |
| 14.40～15.00 (24) | 構造物の不規則振動に関する一考察—応答が一定レベルを越える回数について— | 京都大学工学部 後藤尚男・○亀田弘行  |
| 15.00～15.30      | 討 議 (19)～(24)                        |   |
| 15.30～15.40      | 休 憩                                  |   |
| 15.40～16.00 (25) | 1968年十勝沖地震および余震の港湾地域における強震記録         | 運輸省港湾技術研究所○土田 肇・倉田栄一  |
| 16.00～16.20 (26) | 1968年十勝沖地震による港湾被害と現行設計法による解析         | 運輸省港湾技術研究所○片山猛雄・中野拓治  |
| 16.20～16.40 (27) | 土木構造物の耐震安全性について                      | 京都大学工学部 山田善一・○竹宮宏和  |
| 16.40～17.00 (28) | 公共土木施設の震害と経済上の対策                     | 建設省土木研究所 栗 林 栄 一  |
| 17.00～17.20      | 討 議 (25)～(28)                        |   |
| 17.20～17.25      | 閉会あいさつ                               |   |

5. 講演概要：定価800円(送料70円)6月16日に出来ますので事前にご必要の方は代金を添えてお申込み下さい。(B5判 オフセット印刷, 約125ページ)
6. 懇親会：下記により開催致しますので, ご希望の方は, 当日会場受付にお申込み下さい。
  - (1) 日 時：7月15日(火)18.00から
  - (2) 場 所：土木学会土木図書館5号室
  - (3) 会 費：未定

## 第2回土木計画学講習会

◀ 東京会場：8月28日(木)～8月29日(金) ▶  
 ▶ 大阪会場：9月4日(木)～9月5日(金) ▶

昨年8月実施致しました第1回土木計画学講習会に引き続き、第2回土木計画学講習会を下記要項に従って開催致しますので、多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

土木学会土木計画学研究委員会

1. 期 日：東京会場／8月28日(木)～8月29日(金)  
 大阪会場／9月4日(木)～9月5日(金)
2. 会場および定員：東京会場／土木学会土木図書館講堂・定員160名  
 (東京都新宿区四谷1丁目無番地／国電・地下鉄四ツ谷駅際外濠公園内／電351-5130番)  
 大阪会場／大阪科学技術センター401号室・定員160名  
 (大阪市西区<sup>うつぼ</sup>靱1丁目118番地／地下鉄3号線信濃橋下車北へ15m, 靱公園北東角／電433-5321番)
3. 参加費：会員2500円, 会員外3000円(ただし, 1名当りの参加費・テキスト代を含みます)
4. 主 題：調査計画と計画手法
5. 主 旨：最近の土木事業は著しく大型化しており, その結果として, 必然的に計画の合理化が要請されてきております。また今日, 土木事業の計画部門に何らかの形で携さわる技術者の数が非常に多くなってきており, その結果, ある程度体系づけられた手法が提供される場が求められるようになって参りました。しかし, 土木工学における計画の手法はまだ未成熟であり, 一部で用いられている手法も, まだ広く土木分野の多くの技術者の知るところとなっておりません。  
 この間の事情に鑑み, 昨年8月に開催致しました第1回土木計画学講習会に引き続いて, 今回「調査計画と計画手法」を主題とする第2回目の講習会を開催することにしました。本講習会は土木計画学シンポジウムと異なり, 第一線の技術者に計画の基礎となる手法を学んでいただくことをおもなねらいとしております。関係各位多数のご参加をおすすめ申し上げます。
6. プログラム：<第1日>  
 9.50～10.00 開会のあいさつ  
 10.00～12.40 調査計画法および質問 名古屋大学 河上省吾  
 14.00～16.40 情報の抽出および質問 建設省 中村慶一  
 <第2日>  
 9.00～11.40 L.P. および質問 京都大学 吉川和広  
 13.00～14.50 パイパス計画の実際例 建設省 稲見俊明  
 15.00～16.50 水資源計画の実際例 水資源開発公団 佐々木才朗
7. 申込方法：参加希望者は ① 氏名, ② 所属, ③ 連絡先住所, ④ 会員区分, ⑤ 連絡事項を記入, 参加費同封のうえ8月10日までに下記宛申込むこと。  
 <郵便番号160> 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事務局編集課
8. 備 考：担当(係)の電話番号は下記のとおりです。  
 (03) 351-5130 番

## 第19回応用力学連合講演会講演募集

共 催：日本学術会議力学研究連絡委員会・応用物理学会・日本造船学会・土木学会・日本機械学会\*・日本建築学会\*・日本航空宇宙学会・日本数学会・日本物理学会 \*印は幹事学会一

本講演会を活発にするために, つぎの要領により開催します。

1. テーマ別のシンポジウムとこれに関連した研究論文の発表/2 テーマにかかわらず研究論文の発表  
 テーマ別のシンポジウムにおける特別講演は運営委員会が幾人かの方々をお願いします。研究発表は1, 2とも広く募集しますから, ふるって応募下さい。

今年のテーマは下記の3つです。

1. テ - マ：A) 生体の力学・B) 材料力学および構造力学における数値計算法・C) 熱流体力学
2. 日 時：1969年10月3日(金), 4日(土)の2日間
3. 会 場：東京都勤労福祉会館会議室(東京都中央区新富町1丁目1番5号)
4. 申込期日：1969年6月30日(月) 所属学会必着

5. 申込要領：講演申込みは所属参加学会を通じて行ない、参加学会会員以外の方は直接幹事学会に申込みこと。講演内容はすでに発表されたものでさしつかえないが、最近の研究に属するものが望ましい。申込みはB5判の用紙に横書でつぎの事項を記載すること。

(ア) 講演題目/(イ) テーマの区分(上記のA・B・C いずれか、またテーマにかかわらない研究論文の場合はDとする)/  
(ウ) 概要 200字以内/(エ) 講演ならびに連名者(協力者)の各氏名(連名の場合は講演者に○印をつけること)、勤務先、  
学会員資格、年令/(オ) 連絡者の氏名および連絡先/(カ) スライド(35mmに限る)の有無

注：(1) 講演時間は討論を含め1題目 20分の予定/(2) 講演の採否は運営委員会にご一任願います/(3) お申込みの際は付記をご覧ください。

6. 論文抄録集：聴講者用のテキストとして論文抄録集を作ります。講演者は抄録原稿をつくり、講演申込学会へ下記により必ず期日までに原稿を提出して下さい。

(ア) 論文抄録(原稿)提出期日 7月 25日(金)/(イ) 必ず所学の原稿用紙を用いる、用紙は所属学会から講演申込者に送付します。所定以外の用紙に書いたものは受付けません。/(ウ) 原稿用紙(図表・写真を含めて1枚当り1620字)1枚または2枚/(エ) 原稿はオフセットによりそのまま印刷されますから余白を残さないよう体裁よくめいりょうにスミ書すること。写真も入れられます。/(オ) 原稿の書き方は用紙とともに送付します。/(カ) 講演者には論文別刷を20部贈呈いたしますが、抄録集は贈呈いたしません。/(キ) 抄録集にはシンポジウムの特別講演も収録いたします。

[付記] 日本学術会議力学研究連絡委員会からのお知らせ：日本学術会議力学研究連絡委員会は、本講演会の論文のうちから適当なものを選定して欧文論文集を刊行する予定であります。本欧文論文集の原稿に関しては追って同委員会から連絡します。

## 第6回衛生工学研究討論会論文募集

土木学会衛生工学委員会は、下記の予定で研究討論会を実施しますので、論文提出希望者はこ応募下さいますようご案内いたします。

### 記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1970年1月下旬
3. 場 所：土木学会図書館講堂(新宿区四谷1丁目無番地)
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：10月末までに講演原稿を土木学会衛生工学委員会まで提出下さい。なお、原稿は学会指定のオフセット用原稿用紙(申し込み次第送付)を使用下さい。原稿枚数は8枚までとし、期日以後は、受付をお断りしますのでご注意下さい。
6. 申 込 先：土木学会衛生工学委員会(新宿区四谷一丁目)
7. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。

## 第5回国際水質汚濁研究会議について

標記会議が1970年7月27日～31日、米国サンフランシスコ市ブルックスホールにおいて開催されますが、その日程(予定)が次のとおりになりましたのでお知らせいたします。

1969年 9月19日 応募論文締切り/9月30日 論文選考委員に発送/10月31日 論文選考委員結果報告

1970年 4月25日 会議参加予備登録締切り(1人10ドル)/5月10日 予備登録者に印刷論文発送/6月10日 予備登録者論文受領/7月27日～31日 会議(参加費1人50ドル)/8月2日～3日 ハワイにおける会議(Post Conference Session)

論文作成要領、採用論文数等の詳細については、土木学会事業課にご照会下さい。

## 構造物またはその構成要素の終局強度に関する研究発表会論文募集

### (第16回橋梁・構造工学研究発表会)

今年度は下記により、標題の研究発表会を開催いたします。論文提出希望者はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1969年12月5日(金)
2. 共 催：日本学術会議構造工学研究連絡委員会・土木学会・日本建築学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂

(1) 論文内容：鋼、鉄筋コンクリート、プレストレスト コンクリートあるいは鋼とコンクリートの合成された構造物または

これらの構成要素の終局強度、耐荷性状に関する独創的な実験的、理論的研究を対象とする。

- (2) 申込方法：8月30日までに論文題目、発表者氏名、勤務先および100字以内の内容便概をそえて所属学会に申込んで下さい。採否は学術会議の上記研究連絡委員会におまかせ願います。採用のうちは10月15日までに講演原稿の提出方をお願いいたします。

## 水工学夏期研修会について

毎年の夏に開催している水工学夏期研修会は、都合（I.A.H.R.の開催、その他）により本年は開催致しませんのでご了承願いたく存じます。

なお、1970年は仙台で開催する予定でございますので、その際は多数ご参加下されば幸いです。

土木学会水理委員会

## 応力測定に関する講習会

◀ 8月19日(火)~22日(金) ▶

主 催：日本材料学会

協 賛：応用物理学会・精機学会・土木学会・日本造船学会・日本機械学会・日本金属学会・日本建築学会・日本航空宇宙学会  
・日本鉄鋼協会・日本非破壊検査協会

標記の講習会を下記のとおり開催しますのでご案内いたします。

1. 期 日：1969年8月19日(火)~22日(金)4日間
2. 会 場：電機大学（東京都千代田区神田錦町2の2）(予定)
3. 題目および講師（予定）

第1日	講 議			
9.50	開会のあいさつ	日本材料学会X線材料強度部門委員会委員長	平	修 二
10.00~12.00	モフレ法について	立命大理工	村	上 裕 則
13.00~16.00	X線応用測定法	京大工	平	修 二
第2日				
10.00~12.00	光 弾 性	慶応大工	国	尾 武
13.00~16.00	X線による微視的ひずみの測定	名工大	林	建 吉
第3日・第4日	実 習			
9.30~17.00	X線応力測定法/X線による微視的ひずみの測定/モフレ法/光弾性			

4. 定 員・講義および実習：50名 講義のみ左記の外に100名
5. 聴講料・講義および実習：会 員 10 000 円，：非会員 12 000 円
6. 講義のみ：会 員 4 500 円，：非会員 5 000 円

ただし、X線応力測定法の講義、実習には養賢堂発行の「X線応力測定法」を使用します。ご入用の方は聴講料のほかに1300円を添えてお申し込み下さい。他のテキストは上の聴講料に含まれています。

7. 申込締切：1969年8月10日(日)
8. 申込方法：随意用紙に参加希望の区別、氏名、所属、連絡先、履修書希望の有無を明記の上聴講料をそえて下記宛お申し込み下さい（ただし「X線応力測定法」をお持ちでない方は別に代金を添えること）
9. 申 込 先：日本材料学会 講習会係（京都市左京区吉田泉殿町1の101 TEL 761-5321 代表 振替口座 京都 26625 番）

## 映画試写会開催について

土木学会視聴覚教育委員会では、毎月第2土曜日に映画試写会を行っておりますので、多数お問い合わせの上ご観賞下さいますようご案内致します。

### 記

1. 場 所：土木図書館講堂（東京都新宿区四谷一丁目 国電・地下鉄四ツ谷駅下車）
2. 日 時：毎月第2土曜日 14.00~ 7月は12日(土)です。
3. 上映映画：7月はダム関係の映画を上映致します。
4. 参 加 費：無料、土木関係以外の方も歓迎致します。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南 1 条西 2 丁目・勸銀ビル 5 階 電話 0122-25-7038)

(1) 夏季見学会

(札幌冬期オリンピック施設工事と道南の名勝を探る)

1. 札幌地区：(1) 期 日：1969 年 7 月 11 日 (金) 日帰り  
(2) 集 合：札幌大通テレビ塔 (9.30 発)  
(3) 見 学：真駒内スピードスケート室内，室外競技場～(宮の森ガーデン一昼食)～大倉山ジャンプ競技場～手稲山各種競技施設 (70m・90m)
2. 室蘭地区：(1) 期 日：1969 年 8 月 22 日 (金) 日帰り  
(2) 集 合：室蘭駅前 (9.00 発)  
(3) 見 学：中登別ディバダーク工法橋梁 (140m) 工事～(オロフレ峠)～(洞爺湖畔)～国鉄豊浦洞爺間線増工事～白鳥台ニュータウン宅地造成～(乗船)～崎守埋立工事～外防波堤建設工事～富士鉄バス建設工事
3. 参加料：各地区とも会員 700 円 学生会員 500 円 一般 1 000 円
4. 定 員：各地区共 55 名 (申込順に締切)
5. 乗 物：観光バス
6. 申 込 先：支部事務局 (札幌市南 1 条西 2 丁目・勸銀ビル 5 階 電話 (25) 7038)
7. 共 催：土質工学会北海道支部

(2) 研究発表会論文・報文募集

標記の原稿をつぎの要領で募集いたします。

1. 発 表：1970 年 2 月下旬札幌市民会館 (予定) で口頭発表するほか，事前に“論文集第 26 号”として本印刷のうえ本道会員ならびに全国主要研究機関に配付する。
2. 内 容：土木工学，同技術，工事報告文など
3. 応募方法：支部事務局へ文書または電話で申込みのこと。申込み次第所定の原稿用紙，投稿要領などをお送りする。
4. 応募資格：北海道支部所属の会員を原則とする。
5. 原稿締切：11 月 20 日まで，期日を過ぎたものは印刷日程の都合上受理できない。
6. 支部奨励賞：応募論文は選考のうえ賞状，賞金，メダルを授与される。

中部支部行事案内 (郵便番号 450 名古屋市中村区笹島町 1-18 名古屋鉄道管理局施設部) 工事第一課内 電話 052-551-8111 内線 266

昭和 44 年度第 1 回技術講座

◀ 8 月 28 日 (木) ▶

1. 日 時：1969 年 8 月 28 日 (木)
2. 場 所：愛知建設業会館 名古屋市中区栄 3-28-21
3. 定 員：150 名
4. 題 目：交通工学講座
5. プログラム：9.30～9.40 支部長挨拶  
9.40～11.00 交通計画  
11.00～12.00 道路計画  
13.00～14.00 鉄道計画  
14.00～15.00 港湾計画  
15.00～16.00 名古屋市の交通計画  
16.00～16.05 幹事長挨拶
6. 受講費：テキスト代共 300 円

土木学会中部支部長  
名古屋大学教授 毛利正光  
建設省中部地方建設局道路部長 増岡康治  
国鉄中部支社次長 打田富雄  
運輸省第 5 港湾建設局次長 原口好郎  
名古屋市計画局長 谷重幸  
土木学会中部支部幹事長

関西支部行事案内 (郵便番号 537 大阪市東成区中道元町1丁目 149 番地)  
電話 06-981-2510, 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 工程管理に関する講習会

◀ 6月17日(火)~18日(水) ▶

去る3月18日, 19日の両日実施し好評を博しました工程管理に関する講習会は, その後多数の会員各位より再開の要望が出てまいりましたので, ここに本講習会を下記により再度開催することにいたしました。ご参加をお待ち申し上げます。

記

1. 日 時: 1969年6月17日(火), 18日(水)の両日, 9.00~17.00

2. 場 所: 大阪科学技術センター4階401号 電話大阪(06)443-5321

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)

3. 題目と講師: 第1日(6月17日)

開 会 換 拶

9.00~10.20 ① これからの工程管理の考え方

10.30~12.00 ② 同 上

13.00~17.00 ③ ネット・ワーク手法の計算および演習

国鉄中央鉄道学園学長室調査役 矢部 真

日本道路公団高速道路広島建設所津山工事々務所長 永吉 寿 男

京都大学教授工学部 工博 吉川 和 広

および建設コンサルタンツ協会大阪支部技術研究委員会施工管理分科会

第2日(6月18日)

10.00~11.00 ④ 安治川水門建設における工程管理

11.00~12.00 ⑤ 港湾および空港工事における工程管理

13.00~14.00 ⑥ 道路工事における工程管理

14.00~15.00 ⑦ 橋りょう下部工事における PERT 導入例

15.00~16.00 ⑧ 地下駅構築における PERT 導入例

16.00~17.00 ⑨ 万国博覧会会場建設における PERT 導入例

閉 会 換 拶

大阪府土木部高潮課長 那智 俊 雄

第三港湾建設局工務第一課長 城 所 正 雄

近畿地建第二阪神国道工事々務所長 片山 重 夫

中央復建コンサルタンツ(株)調査研究室次長 柳田 保 男

(株)奥村組技術研究所調査部長 河原畑 良 弘

日本万国博覧会協会建設部工程管理課長 山本 芳 雄

4. 定 員: 160名(先着順)

5. 参 加 費: 会 員 1100円(テキスト代を含む)ただし講習会当日は1600円となりますので期限内に前納して下さい。  
非会員 1600円(テキスト代を含む)

6. 申 込 期 限: 1969年6月7日(土)

7. 申 込 方 法: 参加希望者は勤務先, 連絡先, 氏名および会員の種別を明記(様式随意)し, 上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。

(注) 都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

(2) 若い会員懇親パーティ(第1回)

◀ 6月17日(火) ▶

若い会員相互の親睦をはかりたいと存じますので, 多数ご参加のうえ, 自由なご発言をお待ち申し上げます。

1. 日 時: 1969年6月17日(火) 17.00よりの予定(工程管理講習会第1日終了後)

2. 場 所: 大阪科学技術センター6階603, 604号 電話大阪(06)443-5321 番

大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)

3. 参加者資格: 39才未満の土木学会会員

4. 定 員: 50名(先着順)

5. 参 加 費: 無 料

6. 申 込 期 限: 1969年6月7日(土)

7. 申 込 方 法: 参加希望者は勤務先, 連絡先および氏名を明記(様式随意)して土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送ります。

(3) プレードガーダーの座屈に関する研究発表会

◀ 8 月 30 日 (土) ▶

主 催：関西橋梁鉄骨溶接研究会 後援：土木学会関西支部・溶接学会関西支部

1. 日 時：1969 年 8 月 30 日 (土) 13.00~17.00
2. 場 所：大阪科学技術センター 4 階 401 号 電話大阪 (06) 443-5321 番  
大阪市西区靱 1 丁目 118 番地 (地下鉄 3 号線信濃橋下車北へ 150 m 靱公園北東角)
3. 題目と講師：
 

① 総 論	京都大学教授 工博 小 西 一 郎
② 文献調査の説明	(株) 駒井鉄工所 播 本 章 一
	日本橋梁 (株) 松 田 正 弘
	三菱重工業 (株) 井 友 二
③ プレートガーダーのフランジの局部座屈	名古屋大学助教授 工博 福 本 啓 士 博
④ プレートガーダーの曲げ座屈 質 疑 応 答	関西大学教授 工博 米 沢 博
4. 定 員：150 名 (先着順)
5. 聴 講 料：無料，テキスト代 1 500 円，送料 80 円
6. 申 込 締 切：1969 年 8 月 20 日 (水)
7. 申 込 方 法：参加希望者は往復ハガキで，テキストご希望の方はテキスト代に送料を添えて下記あてお申し込み下さい。
8. 申 込 先：大阪市淀川区長柄浜通 1 丁目 1 の 13 (郵便番号 531) 日本橋梁 (株) 設計研究室 松 田 正 弘 氏

テキスト頒布について

工 程 管 理	頒価 1 000 円	送料 100 円
工事の安全対策	700 円	80 円
近畿開発と大型土木プロジェクト	400 円	60 円
公害振動測定法 (案) (騒音振動委員会編)	無 料	35 円
騒音振動公害	1 000 円	100 円
シールド工法研究会資料 (地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点の 2 点 1 組)	100 円	55 円
写真測量とその応用	800 円	80 円
土木工学における動的現象の計測とデータ処理	700 円	80 円
水理学・水文学における最近の進歩	1 000 円	100 円
道路・交通工学における最近の諸問題	500 円	60 円 (残部僅少)
プレストレストコンクリート最近の進歩	500 円	80 円
土木構造物の振動と安全性	1 000 円	80 円

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部 (振替口座利用) へお申し込み下さい。

新刊雑誌のお知らせ

最近，ニュージーランド地震工学会から下記の雑誌が刊行された。

Bulletin of the New Zealand Earthquake Engineering Society

毎年，4 回から 6 回発行される予定であり，まず創刊号から揃えることができる。購読料は 1 年あたり 5 ドルである。購読を希望する個人または団体は，下記へ問い合わせられたい。

Secretary,

New Zealand Institution of Engineers, P.O. Box 5036, Wellington, NEW ZEALAND.



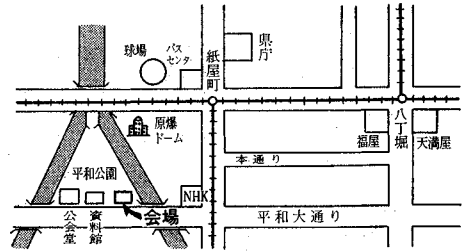
中国四国支部行事事案内 (郵便番号 730 広島市基町 10 番 3 号 (自治会館内)  
 広島県道路建設課 電話(代表)0822-28-2111)  
 土木学会中国四国支部事務局

(1) 昭和 44 年度中国四国支部年次総会・特別講演会

◀ 7 月 18 日 (金) ▶

1. 会 場：広島平和記念館講堂  
 広島市中島町平和記念公園内  
 電 (0822) 41-5246 内線 67
2. 日 時：1969 年 7 月 18 日 (金) 総 会 10.00~10.20  
 特別講演会 10.30~16.00
3. 次 第：  
 総 会：昭和 43 年度事業報告/昭和 43 年度会計報告/昭和  
 44 年度事業計画/昭和 44 年度実施予算/新役員  
 員の紹介

会場略図



特別講演会：

- 海洋開発について  
 建設工事ともなう公害問題について  
 都市計画の最近の話題について

東海大学教授 速水 頌一郎  
 福井大学教授 鳥 海 勲  
 広島大学 ウィリアム・オズワルド・バックハウス

4. 講演概要集頒布：当日会場で販売 (実費) しております。

(2) 中国・四国支部第 21 回学術講演会

◀ 7 月 17 日 (木) ▶

1. 会 場：広島平和記念館第 3 会議室 (第 1 会場), 第 4 会議室 (第 2 会場)  
 広島市中島町平和記念公園内 電 (0822) 41-5246 内線 54 (第 1 会場), 内線 55 (第 2 会場)
2. 日 時：1969 年 7 月 17 日 (木) 9.15~17.15
3. 講演題目および講師：(発表時間 1 題 15 分)

第 1 会場 (午前) 応用力学・構造力学・橋梁

9.15~10.30

- ① 円孔を有する H 形はりの一解析法とその適用性について 広島大学工学部 工博 大村 裕・工修 上野谷実・○橋本安之  
 ② 斜板解析への有限要素法の適用性について 広島大学工学部 工博 大村 裕・川田工業 KK 工修 中崎俊三・広島県広島土木建築事務所 ○大倉幸三  
 ③ トラス橋における床構造の荷重配分作用について 徳島大学工学部 工博 星 治雄・工修 児嶋弘行・○平尾 潔  
 ④ トラス構造物の最適設計法に関する研究 愛媛大学工学部 工修 大久保 慎二  
 ⑤ トラス桁の立体的自由振動の模型実験について 山口大学工学部 工修 会 田 忠 義

10.30~10.50 討 議

10.50~11.00 休 憩

11.00~11.45

- ⑥ 曾江谷橋の応力測定について 徳島大学工学部 工博 星 治雄・工修 児嶋弘行・工修 ○横田健一  
 ⑦ 栗原川橋の載荷試験について 建設省中国地方建設局 三 野 四 郎  
 ⑧ レール接着絶縁継目についての 2, 3 の実験的考察 愛媛大学工学部 工博 見沢繁光・工博 ○安山信雄

11.45~12.00 討 議

第 1 会場 (午後) 道路計画

13.00~14.00

- ⑨ 中国地方の都市における人間流動 建設省中国地方建設局 椎名 彪・山岸俊之・○徳島征二  
 ⑩ Floating method の改良について 広島大学工学部 工博 ○門田博知・中国電力 KK 藤原茂範  
 ⑪ 新広島国道における系統式信号処理について 建設省中国地方建設局 新居英一・山下昭光・神原俊彦・○井上靖武

14.00~14.15 討 議

コンクリートおよび鉄筋コンクリート

14.15~15.15

- ⑫ 無補強はりのせん断耐力に関する 2, 3 の実験的検討 徳島大学工学部 工博 荒木謙一・戸川一夫・○田原克尚  
 ⑬ 軽量鉄筋コンクリートはりのせん断耐力に関する一実験 徳島大学工学部 工博 荒木謙一・戸川一夫・○井上直仁  
 ⑭ 鉄筋コンクリート短柱の圧縮疲労に関する研究 山口大学工学部 工博 加賀美一二三・○有富範伊  
 ⑮ 偏心軸力を受ける軽量鉄筋コンクリート柱の強さ 広島大学工学部 工博 ○船越 稔・松江高等工業専門学校 阿部康俱

15.15~15.30 討 議

15.30~15.40 休 憩

15.40~16.55

- ⑮ モルタルおよびコンクリートの引張強度について 愛媛大学工学部 松本 三郎
- ⑯ 高炉スラグ コンクリートに関する研究 広島大学工学部 工修 米倉 亜州夫
- ⑰ 人工軽量骨材コンクリートの一考察 山口大学工学部 工博 加賀美一二三・兼行啓治・山口大学工業短期大学部○長谷川博
- ⑱ 超かた練りコンクリートの蒸気養生 徳島大学工学部 工博 荒木謙一・河野 清・○林 岑生
- ⑳ 各種混和材料を用いたかた練りコンクリートの振動締固め 徳島大学工学部 河野 清・水口裕之・○竹村和夫

16.55~17.15 討 議

第2会場(午前)水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学

9.15~10.30

- ① 流域の保水能力の変化に関する研究 広島大学工学部 工博 金丸昭治・山口大学工業短期大学 星 健三・広島大学工学部 工修 三島隆明・○山木 勝
- ② 流域の開発にとともなう流出変化の評価法について 愛媛大学工学部 農博 豊 国 永 次
- ③ 急流河川の河状に関する水理学的研究 徳島大学工学部 工博 杉尾裕三郎・徳島県土木部 富士武治・徳島大学工学部○堀 勝也
- ④ 円柱周囲の洗掘について 山口大学工学部 齊 藤 隆
- ⑤ 自由流出時の鉛直刃形水門の流量係数について 広島大学工学部 工修 名 合 宏 之

10.30~10.50 討 議

10.50~11.00 休 憩

11.00~11.45

- ⑥ 鉛直管による選択取水について 山口大学工学部 工修 浦 勝・○星隈保夫
- ⑦ 臨海工業用地護岸に沿う波高分布について 徳島大学工学部 工修 三井 宏・○筒井茂明
- ⑧ 骨材プラントからの排出濁度について 山口大学工学部 中 西 弘

11.45~12.00 討 議

第2会場(午後)道路舗装

13.00~14.00

- ⑨ スライディング・プレート・マイクロビスコメーターによるフィラー・ピッチューメンの研究 徳島大学工業短期大学 工博 森吉満助・○山崎泰三郎
- ⑩ アスファルト舗装の温度変化に対する粘弾性的研究 山口大学工業短期大学 上 田 清
- ⑪ 乳剤処理土の繰返し載荷試験について 山口大学工学部 本 田 諭
- ⑫ プロフィールメーターによる舗装調査 建設省中国地方建設局 曾 木 正

14.00~14.15 討 議

土質力学・基礎工学

14.15~15.15

- ⑬ 杭先に角度をもつ杭貫入時の土中応力についての模型実験的研究 広島大学工学部 林 公 重
- ⑭ 斜面の安定解析のためのコンピュータープログラム 徳島大学工学部 山上拓男・瀬川浩司・○山口健二
- ⑮ 軟弱地盤における鋼矢板土留の応力測定について 鹿島建設KK○楠本千賀志・福山共同火力KK 松岡敏彦
- ⑯ リッパメーターによる岩質の判定に関する研究 建設省中国地方建設局 入 江 幸 男

15.15~15.30 討 議

15.30~15.40 休 憩

15.40~16.55

- ⑰ 海成粘性土の三軸圧縮試験におけるせん断特性について 徳島大学工学部 工博 小田英一・阿南工業高専○米津 聖
- ⑱ 純粋せん断クリープ試験結果の応力緩和への適用について 徳島大学工学部 工博 小田英一・○木村 享
- ⑲ 浸透圧による軟弱土質の脱水について 広島工業大学○鈴木健夫・島 重章

16.55~17.15 討 議

(3) 見学会

◀ 7月19日(土) ▶

1. 日 時:1969年7月19日(土)8.30~12.00

2. 見学コース:東洋工業(株)(広島県安芸郡府中町)

8.30 広島県庁前貸切バス出発~9.30~11.30 東洋工業見学, 12.00 広島駅解散

3. 会 費:無料(参加希望者は17日,18日両日会場で申し込みを受付けます)

西部支部行事案内 (郵便番号 810 福岡市薬院2丁目14番21号)  
電話 092-78-3714~3716

(1) 夏期講習会

◀ 8月27日(水) ▶

1. 期 日:1969年8月27日(水)

2. 場 所:熊本県阿蘇赤水温泉 阿蘇白雲山荘

3. 講習内容:中級技術者を対象として下記のとおり(順序未定)

- ① 開会のあいさつ
- ② 県下の土木事業について

土木学会西部支部長 長 谷 川 盛 一  
熊本県土木部長 山 田 利 広

- ③ 下水道の雨水流出の 2, 3 の問題
- ④ 新熊本空港の整備について
- ⑤ 九州縦貫高速自動車道について
- ⑥ わかりやすい震動学
- ⑦ 水理模型実験法とその問題点
- ⑧ トンネル換気用立坑掘削機について
- ⑨ 緑川ダム計画について
- ⑩ 九州経済の長期展望

- |                |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|
| 九州大学助教授        | 粟 | 谷 | 陽 | 一 |
| 運輸省八代港工事々務所長   | 久 | 保 | 央 |   |
| 日本道路公団熊本工事々務所長 | 下 | 荒 | 磯 | 滋 |
| 熊本大学教授         | 平 | 井 | 一 | 男 |
| 宮崎大学助教授        | 吉 | 高 | 益 | 男 |
| 建設省熊本工事々務所長    | 江 | 崎 | 正 | 敏 |
| 建設省緑川ダム工事々務所長  | 吉 | 武 | 英 | 一 |
| 九州電力常務取締役      | 小 | 出 | 栄 |   |

4. 参加料: 1000 円

(2) 見 学 会

◀ 8 月 28 日 (木) ▶

- 1. 期 日: 1969 年 8 月 28 日 (木)
- 2. 場 所: A 班 宿舍発~新熊本空港工事~植木縦貫道工事~熊本駅前解散 12.00 頃  
B 班 宿舍発~新熊本空港工事~緑川ダム工事~熊本駅前解散 15.00 頃
- 3. 参加料: A 班 500 円  
B 班 700 円 (うち 200 円中食代とす)

(3) 映 写 会

◀ 8 月 26 日 (火)~27 日 (水) ▶

- 1. 期 日: 1969 年 8 月 26~27 日の両日夜
- 2. 場 所: 上記講習会場大広間
- 3. 上映映画: 約 2 時間予定 (選定中)
- 4. 参加費: 無 料

参加申込について

- (1) 申込書に勤務先氏名記載のうえ講習会、見学会参加料および宿泊予約料を添えて支部あて申込みこと。
- (2) 申込書には宿泊日 (26, 27 日) および見学会 (A, B 班の別) を明記すること。
- (3) 宿泊予約料は 1 名につき 300 円 (1 泊 2 食 2000 円, 当日払, 予約料はその内金とする)
- (4) 申込期日および定員 1969 年 8 月 10 日まで, 150 名 (先着順)
- (5) 申込先: 福岡市薬院 2 丁目 14-21 [810] 土木学会西部支部 (78-3714)
- (6) 申込書は各機関の長または班長あて発送するが, 個人会員その他にて必要の向きは支部に請求されたい (便宜用紙にても差し支えない)
- (7) 参加中止の場合, 参加料および宿泊予約料は払戻しせず。ただし講習会テキストは送付する。

第 13 回国際水理学会会議 (The 13th Congress of IAHR)

- 参加申込締切期日: 6 月 30 日
- 開催期日: 8 月 31 日~9 月 5 日
- 1. 日 時: 1969 年 8 月 31 日~9 月 5 日
- 2. 会 場: 国立京都国際会館 (京都)
- 3. 講演題目:

- ・一般講演; A. Simulation techniques in water resources systems  
B. Poly-phase flows  
C. Estuary hydrodynamics and tsunamis  
D. Hydodynamics of flow in porous media
- ・セミナー; 1. Supercautiation  
2. Laboratory and field measuring-techniques in research on hydraulic machinery and equipment  
3. Modification in river morphology and their simulation  
4. Generation and analysis of random waves

- ・特別講演; 1. Fortier: Non steady flow in pipes  
2. Vasiliev: Problems of the two-phase flow theory  
3. Numachi: Ultrasonic shock waves emitted by cavitation
4. 会 費: IAHR 会 員 12 600 円  
非会員 18 000 円  
同伴者 5 400 円  
学 生 3 600 円 (ただし, すべての social events への参加は認めない)
5. 参加申込方法:  
(1) IAHR 会員および非会員で参加申込希望者は下記宛 Bulletin No. 2 (申込用紙を含む) を請求して下さい。ただちに Bulletin No. 2 を送ります。  
(2) 学生は各大学, 研究機関の指導教授が申込用紙をまとめて申込用紙を請求して下さい。  
(3) 申込用紙に必要事項をご記入の上, 6 月 30 日までにご提出下さい。同時に会費をお納め下さい。
6. 申 込 先: 京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部土木工学教室内 第 13 回国際水理学会会議組織委員会事務局  
申込締切期間は厳守いたします。事務進行上期日後は一切受け付けません。ご了承下さい。

---

## IAHR シンポジウム ——“Hydraulic Machinery and Equipment in the Atomic Age”—— (原子力時代における水力機構と装置)

開催地: スウェーデンのストックホルム

期 日: 1970 年 8 月 23 日~26 日

Registration date (登録日) : 1970 年 8 月 23 日

Technical Sessions (専門部会): 1970 年 8 月 24 日~26 日

テ ー マ: “Hydraulic Machinery and Equipment in the Atomic Age”

タイトル中のは, “in the Atomic Age” は, このシンポジウムは, ごく最近の研究および開発に焦点をしぼることを示す。

詳細なプログラムは 1970 年初頭に配布されるのでシンポジウムの Secretary まで問合わせること。住所は下記のとおり。

Mr. P.G. Fällström  
Secretary of IAHR Symposium 1970  
c/o Swedish State Power Board  
S-16287 VÄLLINGBY, Sweden

論文の申し込み:

論文提出希望者はタイトルとその論文の要旨を (英語または仏語で) 1969 年 9 月 15 日までに提出すること。

要旨はタイプ打ちで 2 ページ (図表を含む)

採用通知: 1969 年 11 月 15 日まで

採用されたら, 1970 年 1 月 31 日までに, 英語または仏語で本文, 要旨を英仏両語でつけ加えて, 論文を提出。

研究旅行: 最終プログラムおよび研究旅行の詳細費用は, 1970 年初めに配布。

---

## 国際会議ニュース欄について

最近の学問・技術の進歩にはいちじるしいものがあります。その進歩にともなって諸外国との学術・技術の交流がますますさかんになってきました。土木学会海外連絡委員会ではこのような情勢にかんがみ多くの会員がそれぞれの関連分野の国際会議に論文提出または参加できる機会をより多くもつために, 従来の国際会議案内を充実し, 関連分野の国際会議の予定はもれなく本誌に掲載できるよう「国際会議ニュース欄」を新設致します。つきましては会員各位に個人的に連絡のあった案内等も必ず海外連絡委員会へご連絡下さいますようお願い申し上げます。